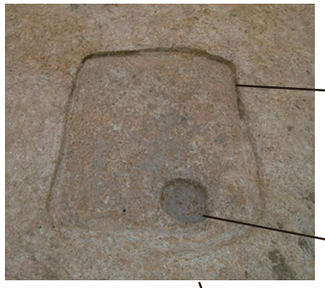
１号館・駐輪場・３号館で発掘調査

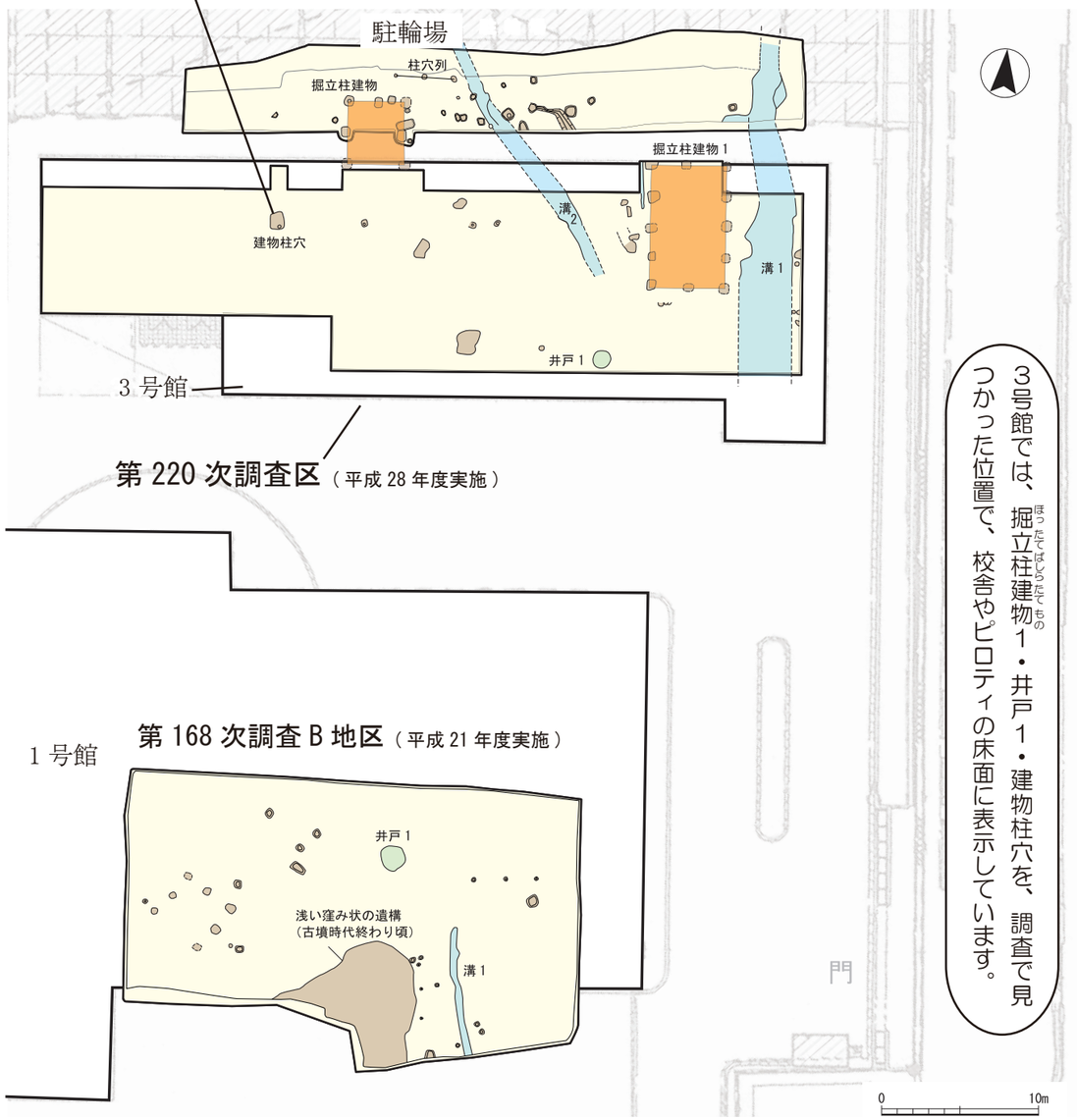
現在のピロティの
地下約 50 ㎝で
見つかった建物柱穴



柱の掘形（ほりかた）
柱の根元を地中に
立てるために掘った穴

柱の痕跡

校内の発掘調査で見つかった建物、井戸などの主な遺構の平面図



3号館では、掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）1・井戸1・建物柱穴を、調査で見つかった位置で、校舎やピロティの床面に表示しています。

発掘調査で見つかった遺構

素掘りの井戸

３号館の調査で見つかった井戸
（第 220 次調査）

奈良時代の地面から深さ約５ｍまで掘り下げると、地下水が湧き出ます。このような深い井戸から生活用水が得られたので、街をつくることが出来ました。地の上でも、小高い台

井戸の掘り下げ調査の様子
（第 168 次調査 B 地区）

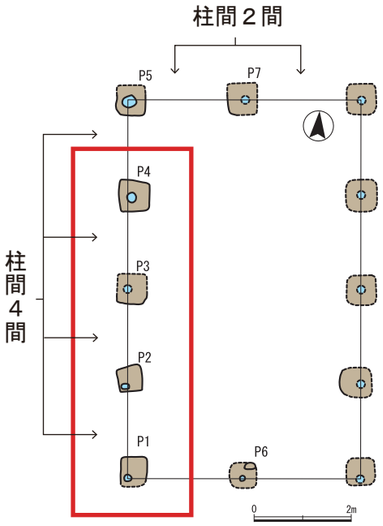
溝（第 220 次調査）

溝 2 からは、奈良時代後半頃（ころ）の土器（土師器、須恵器）の甕（煮炊き具）や食器などがまとまって出土しました。

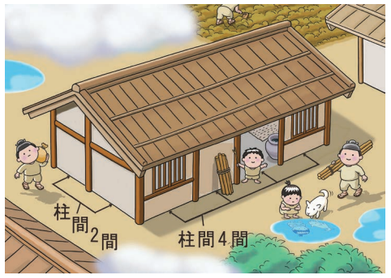
溝の掘り下げ調査の様子

土器が出土した状態

掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）



見つかった7基の柱穴は、その配列から、2間×4間の建物であったことがわかります。



掘立柱建物の復元イメージ